

# 港湾振興便り



2020. 2

第153号

\*:

## 目 次

\*:

- 1 ポートエッセイ — 新型コロナウイルス —  
～ 日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長） 中原 八一 ～

## 2 トピック

- 最北の稚内で「北防波堤ドーム×シーニックバイウェイ」パネル展を開催  
(北海道開発局 稚内開発建設部 築港課)
- 「“高潮・津波に備える！”出前講座」を開催しました！  
(中国地方整備局 広島港湾・空港整備事務所)
- 令和元年度第2回「実りある学舎」を開催しました  
(中国地方整備局 広島港湾空港技術調査事務所)
- 令和初！官民合同防災訓練実施！～豪雨災害に備えて  
(九州地方整備局 関門航路事務所)
- スペクトラム・オブ・ザ・シーズが中城湾港へ、ノルウェー جان・ジェイドが那覇港へ初寄港！  
(内閣府沖縄総合事務局 港湾計画課)

## 3 お知らせ

◇イベント名 : 義経上陸の地 鼠ヶ関を歩こう会

\*:

# 1 ポートエッセイ — 新型コロナウイルス —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

\*:

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない。  
中国本土では感染者数が3万人を超え、未だに増加し続けている。  
また、中国以外の国・地域からも感染者が出て来ている。  
人の行動範囲がグローバル化し、大量輸送・大量移動を可能とする現代において、ひとたび感染症が発生すると国内はもとより、世界各地に一気に飛び火するリスクを孕むこととなる。

わが国においては、ここ10年で中国からの訪日客数が6.7倍に増え、2019年は959万人となった。

全訪日外国人客数の3割を占める規模であることから、これまでインバウンド需要の恩恵に与ってきた。

半面、この度の中国における感染拡大は、わが国にとっても深刻なリスクとして現れた。

日本への感染拡大に対する不安は然ることながら、インバウンド需要を期待し、投資や準備を進めてきた観光産業への影響は深刻である。

春節の訪日客を期待していた観光地やホテル、観光バス業界などは相次ぐキャンセルにより大打撃を受けた。

さらに、中国人が観光ビザを取得する場合、日本の旅行会社が身元保証人となった「身元保証書」が必要であるという。

これが3月末までの訪日予定者約40万人分があるとのことだが、ほとんどがキャンセルになるのではないかとみられている。

また、クルーズ客船による団体旅行やビジネス客はこれに含まれていないことからさらに深刻といえよう。

一方、中国における春節後の企業活動にも懸念がある。

貿易の最大相手国である中国の企業活動の行方もわが国にとって心配材料である。

中国への輸出額は、日本の総輸出額の約19%を占める1兆4,827億円であり、また、中国からの輸入額は、日本の総輸入額の約23%を占める1兆8,446億円である。

中国では春節の休暇をさらに延期するなどの企業活動の制限を加えるなどして、感染拡大の防止に努めているが、再開が更に遅れることになると中国の生産活動の停滞に起因した日本をはじめとする世界との「サプライチェーン」が機能不全を起こしかねない。

潜伏期間での感染や無症状感染者といった目に見えないものとの闘いがいつ終息するのか、また新たな課題を突き付けられたような気がする。

\*:

## 2 トピック

\*:

### ●最北の稚内で「北防波堤ドーム×シーニックバイウェイ」パネル展を開催

(北海道開発局 稚内開発建設部 築港課)

日本最北の一大イベント「2020わからない氷雪の広場」が2月8日(土)、9日(日)の2日間にわたり、稚内港の北防波堤ドーム公園で盛大に開催されました。このイベントは、市民雪像コンテストや雪合戦、巨大かまくらなど、子どもから大人まで寒さに負けず稚内の冬を遊びつくすイベントです。

イベントに併せて稚内開発建設部では「“みち”と“みなと”のパネル展」を開催し、みなと関係では北海道遺産及び選奨土木遺産である稚内港北防波堤ドームの歴史や役割、施設がもたらす効果などを紹介しました。

気温が氷点下10度前後と厳しい寒さでしたが、家族連れなどたくさんの市民が訪れ、寒さを吹き飛ばす様に大いに楽しんでいました。

2月9日(日)には、「稚内のみなとを考える女性ネットワーク」主催の「かまくらで遊ぼう」も同じ広場で行われ、ペットボトルをピンに見立てたボーリングを開催し、倒すピンの数により笑顔と歓声に沸いていました。



イベント会場の様子



パネル展の様子



稚内のみなとを考える女性ネットワーク開催のイベント状況

### ●「“高潮・津波に備える！”出前講座」を開催しました！

(中国地方整備局 広島港湾・空港整備事務所)

1月31日(金)、広島港湾・空港整備事務所は、広島市立吉島東小学校の5・6年生180人を対象に、高潮・津波から命と暮らしを守る護岸工事と防災について関心をもってもらうことを目的に、工事請負業者(りんかい日産建設(株))と共同で、防災学習や、同小学校近隣で行っている広島港海岸高潮対策事業の見学会を行い、高潮・津波対策を間近で見て、知って、体験する出前講座を開催しました。

防災学習では、高潮・津波の仕組みと被害や、高潮から命と暮らしを守る護岸の役割について説明しました。また、広島港海岸高潮対策事業の見学会では、護岸工事の見学と工事の工程の説明や、捨石投入作業を模した体験学習を行いました。

児童たちは、高潮・津波の仕組みと護岸の役割について真剣に勉強しており、『護岸の高さはどうやって決められているのか?』『小学校前の護岸はいつ整備されるのか?』などの質問がありました。今回の出前講座を通じて、護岸工事や防災に関心をもってもらえたと思います。



写真① 防災学習の様子



写真② 体験学習の様子

#### ●令和元年度第2回「実りある学舎」を開催しました

(中国地方整備局 広島港湾空港技術調査事務所)

広島港湾空港技術調査事務所では、学識経験者や各分野のスペシャリストから最新技術に関する知識を学び取り、技術力の向上や効率的な事業展開につなげる場として「実りある学舎（まなびや）」という講演会を毎年開催しています。

今回は 港湾空港技術研究所 構造研究領域 構造研究グループ長 加藤絵万 氏を 講師にお迎えし、港湾施設の維持管理に関する技術開発について最近の話題をご提供いただきました。

物流を支える港湾施設の多くは高度経済成長期に集中的に整備されたため、今後、維持管理・更新費用の急激な増加が懸念されます。更新費用の縮減・平準化には施設に必要とされる性能を適切に維持するための点検診断が不可欠ですが、水中構造物を人により点検することは容易ではありません。

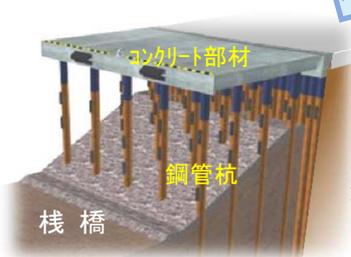
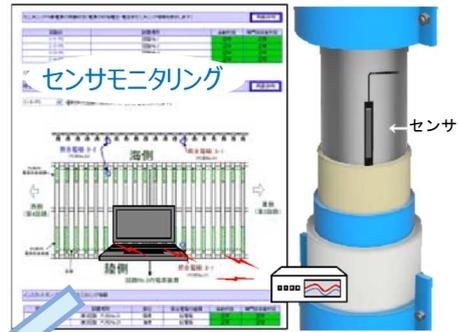
カメラの遠隔操作技術や作図の自動化など、点検者の安全を確保しながら効率的に部材の変状を把握するための新たな技術と、その活用方法をご紹介します。



講演会の様子

点検診断技術の開発・運用

栈橋上部工点検用ROVと  
点検診断支援ソフト



点検者の安全を確保しながら  
効率的に部材の変状を把握



●令和初！ 官民合同防災訓練実施！～豪雨災害に備えて

(九州地方整備局 関門航路事務所)

令和元年12月6日、九州地方整備局関門航路事務所では、昨年度に引き続き「海道見守り隊（民間事業者4社）」と

災害協定団体である「全国浚渫業協会西日本支部」と合同で、豪雨災害を想定した流木等回収訓練を実施しました。

北九州市白野江沖の海上を訓練場所として、海に流れ出した流木を民間の船が発見し国が回収する想定で行われ、本訓練を通じて国と民間との一層の連携強化が図られました。



官民合同での訓練状況



訓練終了後のミーティング

●スペクトラム・オブ・ザ・シーズが中城湾港へ、ノルウェー جان・ジェイドが那覇港へ初寄港！

(内閣府沖縄総合事務局 港湾計画課)

1月4日(土)、ロイヤル・カリビアン・インターナショナル社の「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ(169,379GT)」が中城湾港へ初寄港しました。乗客の多くは香港からのフライ&クルーズによるもので、50か国以上の国々から約4,400人が沖縄の中部地域の観光地を訪れました。また、1月27日(月)には国内初寄港となるノルウェー・クルーズライン社所属の「ノルウェー・ジャン・ジェイド(93,558GT)」が那覇港へ寄港しました。両港では初寄港を歓迎するセレモニーが行われ、記念盾の交換や花束の贈呈が行われました。



1月4日、中城湾港に初寄港したスペクトラム・オブ・ザ・シーズ



歓迎セレモニー



1月27日、那覇港に初寄港したノルウェー・ジャン・ジェイド



歓迎セレモニー

